

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300016		
法人名	有限会社FKKサービス		
事業所名	グループホームうれし家		
所在地	岐阜県養老郡養老町鷺巣1125-17		
自己評価作成日	令和5年10月23日	評価結果市町村受理日	令和6年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2192300016-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分や自分の家族を利用させたいくなるホーム」を大切に業務にあたっています。家族しか出来ない事もありますが、家族だから出来ない事もあり、その部分をサポートするのが私たちグループホームだと思います。看護師も2名に増え、スタッフの医療への関心も上がってきました。このコロナ禍で不安になる医療方面も少しでも安心してもらいたいと思っています。今年も柔軟な面会を続けて、関わる人たちが集える場所にしていこうと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、個々の利用者の立場から、「何が自由で、何が安全で、何が幸せなのか」を考えながら、ケアを行っている。家族の思いも理解した上で、事業所が出来る支援について理解を得ながら、家族と共に利用者を支えている。利用者と家族のつながりを継続することが一番重要な事と捉え、コロナ禍であっても、面会を実施している。訪問リハビリに加え、出来る看護を行いながら支援を実施し、終末期には家族と話し合いを重ねながら看取り支援に取り組んでいる。管理者は、職員が新たな視点からもケアを学べるよう、出来る限り外部研修を受講できるようサポートし、スキルアップに繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護福祉の中でのグループホームの位置付けや特色を知り、少人数制を活かせる個別対応に力を入れている。	4つの理念と目標は、具体的ケアとして実践するのに難しく、分かりやすくすることが検討されていた。全員で話し合い、分かり易い言葉で表現し直している。今年は、「利用者にとって幸せな看取りをする」とし、支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年はあまりなかった外出も、喫茶店に行ったり家族と墓参りしたりと増えてきている。散歩の際は近所の方のご挨拶も復活してきた。	自治会活動も徐々に始まり、年末の清掃活動には、利用者と一緒に参加する予定である。今年は敬老会にも参加し、地域住民と交流している。中学生や高校生の職場体験を受け入れている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議うれし家新聞で、ホームの活動や研修を知ってもらうようにしている。災害情報などはとても助かっている。	議事録には、事業所と参加者の質疑応答が記録され、支援状況について理解されているのがうかがえる。地元の高齢者情報を得られたり、困りごとを相談されることもある。議事録を全家族に送付して共有している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度は地域包括センターの方にかなり助けて頂いた。困難事例や施設内事故の件も養老町福祉課とも連携を取りながら進めることができた。	事業所として解決が難しい事案については、行政と相談し、対処方法について話し合いながら助言を得ている。毎月、行政主催の研修が開催され、積極的に参加している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を軸に、外部研修や他施設との意見交換など、お互いに不安な事やしんどい事を共有できるような関係を築いている途中である。	毎月、身体拘束委員会を開催している。利用者の人権を守りながらも、止むを得ない場合の拘束について、随時モニタリングを行い、その状況を家族に報告している。外部研修を受けながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年にホーム内で「これは虐待になるのでは」という事案があり、緊急研修を行った。管理者の私としてはスタッフのアンガーマネジメントが重要だと再確認した。	身体拘束をしないケアと同様、虐待防止の徹底に取り組んでいる。職員のストレスや虐待に対する個々の意識について、確認している。虐待防止委員会は、これから立ち上げるところである。	虐待防止の指針の整備、3ヶ月に1回の委員会の開催、年2回の研修など、早急にも実施されることを望みます。

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年成年後見人制度の利用を開始した方がまだ利用できずにいる。色々な制度があることが利用者を通じて勉強させてもらっている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更などがある場合や、ご家族から変更を希望されるような場合は、周知して広く意見を頂くことにしている。今のところは変更はない。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や外出も増えてきていて、それに比例するように、「親がこう言っていた。」という内容の話が耳に入るようになってきている。スタッフに直接言えないことも、家族を通して聞くことがある。	毎月、「うれし家」便りと共に、利用者個々の「近況報告シート」を送付している。管理者が家族に電話することも多く、家族の面会も多い。面会の際には、家族の意見や希望を聞いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見交換は普段からかなり出来ていると思っている。定期的と一緒に業務に入ることによって自分自身が思うこともスタッフに聞いたりしている。	職員会議や担当者会議、朝礼などで職員間のコミュニケーションを図っている。日勤と夜勤者との意見のすり合わせを行い、会議の前には、職員が議題を提案するなど、運営に活かしている。管理者と職員は、いつでも気軽に相談できる関係性が出来ている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	昇給や、役職など、今年から増やしてモチベーションを上げている。スタッフも積極的に外部研修参加を希望している。	新たな人事考課制度により、リーダー職を設け、主任と役割分担し、対応している。有給残日数を個々に知らせ取得促進に努めている。一日の決められた休憩時間数は、工夫しながら確保している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間外部研修一覧が来るので、希望の研修を受講できるようにサポートしている。希望がない場合は、必要と思われる研修に参加してもらっている。	職員個々の力量に応じた研修を受講できるようサポートしている。それぞれの目標や将来像が持てるようケアのスキルアップだけでなく、指導者として成長できるよう進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他グループホームとスタッフを交換して、それぞれがお互いの見習いたい点を発見し、持ち帰ることができるようにしている。(半年に一度程度)		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	積極的でない方はスタッフが共通の話題を出したりして話をしている。また、一人が好きな人もいるので、その場合は居室でゆっくり過ごしてもらうなど、対応は様々。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの時点での聞き取りも大事だが、入居してからの会話の中から分かることもとても多い。何ヶ月もしてから「そんなの初耳！」ということもよくある。	常に利用者に寄り添い、傾聴に徹している。利用者の言葉、怒りや喜びの表情を見逃さないようにし、気づきノートにも記録している。心身の情報を記録する中で、利用者の思いを把握しながら介護計画に繋げている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	とにかく外出がしたい気持ちが強い方は、ご家族にお願いして定期的に連れ出してもらっている。また、心身状態が変化していく中で細かな変更はしばしばある。	家族とは頻繁に電話連絡し、要望を聞いている。医師や看護師の意見を参考に、会議の中で話し合っている。また、家族が面会に訪れた時に、担当職員と利用者を交えて話し合い、介護計画の作成に活かしている。	介護計画に沿って、日々、ケアに取り組んでいる。計画の実践とモニタリングを全職員が確認できる書類を整備されることを期待します。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は小まめに書き換えが難しいため、気づきノートを活用している。ケア方法など違うやり方を試したい場合や、変更した方がよい場合はノートで共有して会議で決定する事になっている。	ケアマネジャーでもある管理者が、職員会議や担当者会議、気づきノート等の記録をもとに、見直しや次の計画作りに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出頻度が減っているが、家族からもらった季節の果物や差し入れなどを使っておかし作りをしたりしている。	本人と家族の要望を聞きながら、好きなおやつを職員と一緒に買いに行ったり、差し入れなどを使いながら、お菓子作りを楽しむなど支援している。毎月、ヘルパー資格も有する訪問理美容師が訪れている。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自宅へ帰ったり、家族と外出したりと、少しずつ地域へ出て行く機会が増えてきている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームで受ける内科往診以外は、家族の付添いで行っている。その時はサマリーと薬剤表お渡しして、受診後は往診医と情報提供している。	かかりつけ医は、利用者と家族の希望で選択できることを説明し、今は全員が協力医の訪問診療を月2回受けている。事業所には職員として看護師が配置されているが、夜間やリハビリ対応の訪問看護ステーションの支援も受けられることができ、家族の安心に繋がっている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアプランを共有できていたり、入院時に家族や本人の希望を伝える機会もあるので、入院期間や退院後の受け入れ体制はスムーズに行えている。	協力医療機関での入院は、情報交換もスムーズにでき、退院の際のカンファレンスには看護師かケアマネが参加して、受け入れの準備を整えることが出来ている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に終末期の在り方について、その時点での希望を聞いている。終末期時点での本人の状況で本人や家族の気持ちが揺らぐこともあるので、その都度医師を交えて話し合いを持つようにしている。	事業所の看護師を中心に、看取り支援を行っている。家族の希望に沿い、事業所で出来る看護とケア、看取りを全職員で取り組んでいる。グループホームの役割を考えながら、他の利用者と共に最後の見送りをしている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期定期的な救命救急講習と、看護師による判断の仕方の勉強会などを行っている。まずは状況把握と伝え方を大切にしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP作成に苦労したが、まだ見直しが常にあり完成しきれていない。作成は行政や運営推進会議でのアドバイスもあり助かっている。	ハザードマップ上では、危険区域ではない為、水害時における避難は事業所駐車場としている。避難訓練は運営推進会議と併せて実施し家族の協力も依頼している。総合警備保障(ALSOK)とも契約し、非常時の体制作りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	見守りを優先するあまり、ドアが開けばなしになっている事がよくある。危険な方もいるので個別でカーテンを利用するなど家族と相談した。	全職員が、接遇や権利擁護の研修を受講している。日々、利用者のプライバシーを守りながら、支援に努めている。個々のこだわりも受け止め、生活歴や思いを把握しながら、一人ひとりの暮らし方を尊重しながら対応している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張を出来ない方も多いため、表情や仕草などから読み取ることも必要。自社で満足度チェック表を作成し活用している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	普段の様子やオムツの見直し、薬剤のチェックも行うようにし、個別対応も進んでいる。(外出、家族との連絡) スタッフが慣れずに戸惑う場面もあるが必要だと思っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族からの差入れが多いので、スイーツポテトを作ったり、フルーツポンチを作ったり作りながら楽しめるように工夫している。定期的にお弁当の日にメニューを選べる日もある。	ご飯と汁物は事業所で作り、副菜は配食サービスを利用している。近隣住民や家族からの差し入れを活用して、具だくさんの汁物にしたり、副菜を1品増やして提供するなど、工夫している。月に1回、職員を含めて、好きなメニューの弁当を選ぶ日も設けている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1か月毎に体重測定はあるが、1か月で2キロ以上減少の場合は医師に相談し、カロリーを増やしながらかまめに測定して観察している。また水分摂取量が決まっている方は計量している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導のもと口腔ケアを行っている。義歯の方が多いので噛み合わせや調整をチェックして歯科と連携している。	定期的に訪問歯科医が来所し、歯のチェックや治療、1回は歯科衛生士による口腔ケアを受けている。職員は、歯科衛生士から指導を受けながら、日常の口腔ケアと嚥下機能の低下等、注意を払いながら支援している。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	担当のスタッフに管理しており、職員会議で使用観察と報告を行っている。会社使用のオムツだけでなく、市販の物も利用することもある。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	最近入浴を拒否される方が多く、時間がかかってしまうので、入浴日がずれてしまったり、予定の方が入れなかったりしているのでケア方法を見直している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ドアを閉め切ることが怖い方もいればカギを掛けたい方もいる。なるべく利用者の生活習慣に沿いながら、ドアカーテンを上手に利用する事している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	以前よりも副作用があるか等を気にかけるようになった。変化があれば気づきノートに記入する。最近飲まずにポケットから出てきたり、口から出して捨てている場面もあり、服薬確認を気にかけている。	薬局のコメント付きの処方箋や薬剤情報提供書について、薬剤師から説明を受けている。薬の管理は薬剤師が行い、職員は、アドバイスを受けながら、利用者の飲んだ後の行動や様子にも注意を払っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操・音楽・トランプなど、様々なレクがあるので得意な方を中心に行えるように支援している。利用者同士の声かけも行っており、和やかなレクをする事ができている。	菜園の水やりや収穫、食器洗いや食器拭きなど、利用者自身が好きなこと、出来ることを役割りを持って実践できるよう工夫している。また、張り合いと自信に繋げながら、穏やかに暮らせるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会は禁止せず交流を楽しんでもらっている。その為に普段から感染症が発見された場合の対応を説明しており、ご協力頂いている。	喫茶店や買い物、ドライブなど、週に2回程、外出している。事業所は、自然環境豊かな養老公園のすぐ近くにあり、天気の良い日は、散歩をしながら気分転換を図ることができる。	

岐阜県 グループホームうれし家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭入れを持ち歩かないと不安な利用者がいる。個人の状況に合わせて家族と相談し、持ち歩いてもらう事としている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	こちらからのお知らせや写真送付はもちろんだが、家族からも現在の様子や、昔の写真があればもらう様にしている。本人がとても喜ばれる。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで作った飾りや、夏祭りで使用したうちわなど、季節を感じてもらえるようレイアウトしている。うれし家新聞は毎月配り、フロアでいつでも見られるようにしている。	玄関には、季節の花を飾り、広く明るいリビングには、利用者が合同で作った作品等が飾られている。大きなテレビとテーブルがあり、利用者それぞれが、好きな場所で新聞や雑誌を読んだり、皆でゲームをするなど、寛げる場所となっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	当ホームはフロアで過ごされる方が多い。色んな物に興味を持てるよう、ゲームや塗り絵、農作物などを視界に入りやすいように工夫している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が面会時に整えて行かれる場合も多い。本人と話しながらレイアウトできているので、継続したいと思っている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが確認しにくい方は、夜間は蛍光テープで誘導したり、鈴をつけたりして工夫している。何とかご自分で移動できている。		